三重病院ニュースレター

7 2016

NEWS LETTER vol.203

「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標値（HbA1c値）」が発表されました！ 1ページ

三重病院のサラメシ／三重病院レポート 東海北陸神経･筋ネットワーク研修会を終えて 2ページ

にじいろガーデン／「やまばとギャラリー・個展」情報コーナー／5病棟の生活のひとこま⑭ 3ページ

アレルギー教室のクッキング／外来からのお知らせ／外来診察のご案内 4ページ

「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標値（HbA1c値）」が発表されました！

日本では、年々高齢の糖尿病患者さんが増加しており、国内の糖尿病患者さん約950万人のうち約3分の2は65歳以上と推測されています。高齢の糖尿病患者さんでは、心身機能や社会的背景などの個人差が大きく、脳梗塞･認知症･骨折などで介護を要する場合、さらには、一人暮らしや高齢者世帯の場合には、食事療法や薬物療法が難しく、血糖コントロールが困難となります。また、低血糖になっても、空腹感･汗をかく･動悸･手の震えなどの低血糖症状がでにくく、無自覚低血糖を起こしていることもあります。低血糖状態は、脳に必要な栄養の糖分が不足した状態ですので、認知症発症を早めてしまう恐れがあります。特にインスリンやインスリン分泌を促進するSU薬を服用している方は、あまりに厳格な血糖コントロールをしすぎると、認知機能の低下につながります。

2013年に日本糖尿病学会から発表された熊本宣言では、「HbA1c[注1)]」の値を７%未満にしましょう」という、Keep 7% が提唱されています。これは糖尿病合併症の進行を抑制するには望ましい値なのですが、高齢の糖尿病患者さんにとっては必ずしもあてはまりません。そこで、今年5月に発表された「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標値（HbA1c値）」では、認知機能、日常生活動作（ADL）レベル、薬物療法の内容、年齢によってHbA1cの上限値を7.0～8.5%まで緩和され、重症低血糖のおそれのある薬剤を服用している場合には下限値を6.5～7.5%に設定されました。このように患者さんの特徴･健康状態や治療内容による管理目標値の設定は、日本独自の試みです。

注1) HbA1c（ヘモグロビン・エイワンシー）；血糖コントロールの指標となる血液検査値です。正常値（国際標準値）は、6.2%未満で、6.5%以上は糖尿病型です。
注2) 手段的ADL；買い物、食事の準備、服薬管理、金銭管理など
注3) 基本的ADL；着衣、移動、入浴、トイレの使用など

（内科　荒木 里香）

高齢者糖尿病の血糖コントロール目標（HbA1c値）

患者の特徴・健康状態		カテゴリーⅠ ①認知機能正常 かつ ②ADL自立		カテゴリーⅡ ①軽度認知障害～軽度認知症 または ②手段的ADL[注2)] 低下、基本的ADL[注3)] 自立	カテゴリーⅢ ①中等度以上の認知症 または ②基本的ADL低下 または ③多くの併存疾患や機能障害
重症低血糖が危惧される薬剤（インスリン製剤、SU薬、グリニド薬など）の使用	なし	7.0%未満		7.0%未満	8.0%未満
	あり	65歳以上75歳未満 7.5%未満 （下限6.5%）	75歳以上 8.0%未満 （下限7.0%）	8.0%未満 （下限7.0%）	8.5%未満 （下限7.5%）

高齢者糖尿病の治療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会